
Taboo

Dead of Heart

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Taboo

【コード】

N8609P

【作者名】

Dead of Heart

【あらすじ】

それぞれがトラウマを抱えるバンド、『Kill me』メンバーの水無月紫苑、高倉朔、御堂煌綺、綾永司は人気バンドとして働きながらファンが抱く理想像と自分達の目指す方向に違和感を抱き始める。

彼らはその命を燃やしてアルバムの発売と同時に全員での自殺計画を立てる。

死ぬために生き続けた彼らの日常。

前章（前書き）

初めての投稿ですがお手柔らかにお願いします。

前章

「いや、今日も大成功だよ！いつもありがとう！いまや事務所の看板にまで成長してくれて本当に私は嬉しいよ！」

褒められるのは悪くない。

むしろ嬉しい。

目の前で話してる社長さん。

木崎茜さんはいまや中堅事務所の取締役だ。

三年前に彼女に拾われて無ければ僕らは終わっていただろう。もう、充分過ぎるほどに恩は返したと思うが。

彼女との出会いは唐突だった。

なんせいきなりライブの後で名刺を渡して、
「私が貴方達を日本で一番にしてあげるわ！」
なんて言い出したからだ。

もちろん、その時は走って逃げた。

だが、彼女は何度も何度も足を運んでくれたし契約金として充分な額のお金と保護者を引き受けてもらえることを考慮すれば悪くないむしろ良い取引だったと言えるだろう。

北海道から東京に出て来た僕らは最低限の荷物を持って茜さんの家。茜さんの父親の残した古い平屋に転がり込んだ僕は高校入学早々デビュー、そして二枚目のシングルにして確か深夜の番組にタイアップをねじ込むことに成功し着実に人気を増していった。

次の年に移る頃には人気も出て来たのに平屋じゃまずいということと学校とスタジオの丁度真ん中辺りにある駅前の雑居ビルに引っ越しことが出来たのは充分順調なしと言えるだろう。

雑居ビルはそれまで会社が借りていたものを僕らの稼いだお金で丸ごと買うことが出来たので上の2フロアに住まわせてもらっている。

5

若干あの狭い畳の匂いがする平屋が嫌いじゃなかったのはここだけの話。

ちなみに茜さんが風呂上がり到下着姿でうるつくのだけは許せない。周囲からは敏腕美人社長とか言われているし、スタイルも顔もレベルは高い方だと思いが結婚どころか彼氏も出来ないのはあのおばさん臭い缶ビールの飲みっぷりだというのは僕らメンバーの共通認識だ。

「…とゆうわけで！あんだ達！これからもがんばん稼ぎなさい！以上！解散！」

「……お疲れ様でしたー。」「……」

ようやく茜さんの評価が終わったみたいだった。
茜さんは社員からもそのさばさばした性格で人気と信頼を勝ち得ている。

もちろん僕らにとっても楽に話せるのはメリットだ。

時々ずけずけ入り込んでくれるのは遠慮して欲しいが真剣な話は真面目に聞いてくれるのも上手いと思う。

「紫苑、これからどっかで飯食って帰らねえ？」

「あゝ、うん。僕は別にいいけど司と朔は？」

「……構わない。」

「俺も大丈夫だが煌綺、お前は今週勉強しないとまずいんじゃないか？来週のテストで赤点だけは取るなよ？」

「余計なお世話だっ！勉強は帰ってからやっからいいんだよ。」

今の会話からわかる様に一言でメンバーを説明するなら煌綺はやんちゃなヤンキー、司は無口な読者家、朔は真面目な優等生って感じだろうか。

パートはそれぞれ煌綺がベースとコーラス、司がドラム、朔がリードギター、僕がリズムギターとヴォーカルを担当している。

リーダーは朔でバンドのマネージャーもやっている。それに朔は僕らの生活管理もやっていて収入を分けたり家賃払ったり食費出したら飯作ったりなんでもやってくれる。

多分僕ら三人は朔がないとまともに生活出来ないに違いない。
夜も一人だけ事務所に残ってスケジュール調整したりして帰りも遅いのに朝起きて朔の部屋に行くと美味しい朝ご飯が待っているのを見るとどれだけ超人なんだってツッコミたくなるほどだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8609p/>

Taboo

2011年11月13日09時13分発行